

## 安全データシート(SDS)

Section1 製品及び会社情報	
製品名	MS-5030W
製品記号	CS-CWV
会社名	株式会社MonotaRO
所在地	〒660-0876 兵庫県尼崎市竹谷町2-183 リベル3階
担当者名	商品お問い合わせ窓口
電話番号	0120-443-509
FAX番号	0120-289-888
緊急連絡先	所在地と同じ
整理番号	M180207

Section2 危険物の要約	
GHS分類	
『物理化学的危険性』	
火薬類	分類対象外
可燃性／引火性ガス	分類対象外
可燃性／引火性エアゾール	分類対象外
支燃性／酸化性ガス類	分類対象外
高压ガス	分類対象外
引火性液体	分類対象外
可燃性固体	区分外
自己反応性物質および混合物	分類対象外
自然発火性液体	分類対象外
自然発火性固体	分類できない
自己発熱性物質および混合物	分類できない
水と接触して可燃性／引火性ガスを発生する物質および混合物	区分外
酸化性液体	分類対象外
酸化性固体	分類対象外
有機過酸化物	分類対象外
金属腐食性物質	分類できない

『健康に対する有害性』	
急性毒性(経口)	区分外
急性毒性(経皮)	分類できない
急性毒性(吸入:ガス)	分類対象外
急性毒性(吸入:蒸気)	分類できない
急性毒性(吸入:粉塵)	分類できない
急性毒性(吸入:ミスト)	分類対象外
皮膚腐食性・刺激性	分類できない
眼に対する重篤な損傷・眼刺激性	分類できない
呼吸器感作性	分類できない
皮膚感作性	分類できない
生殖細胞変異原性	分類できない
発癌性	区分外
生殖毒性	区分外
特定標的臓器・全身毒性(単回暴露)	区分外
特定標的臓器・全身毒性(反復暴露)	区分外
吸引性呼吸器有害性	分類できない
『環境に対する有害性』	
水生環境急性有害性	区分外
水生環境慢性有害性	区分外
ラベル要素	
絵表示、又はシンボル	非該当
注意喚起語	非該当
危険有害性情報	GHS分類にはないが、加工等で生じる粉塵や微粉末が肺に吸入されると塵肺等の障害が生じる可能性がある。
注意書き	<p>本安全データシート(SDS)の安全注意を読み理解するまでは取り扱わないこと。</p> <p>この製品を使用するときは、飲食または喫煙しないこと。</p> <p>個人用保護具や換気装置を使用し、暴露を避けること。</p> <p>保護手袋、保護眼鏡、保護面を着用すること。</p> <p>屋外または換気の良い区域でのみ使用すること。</p> <p>粉塵・ヒュームを吸入しないこと。取扱い後はよく手を洗うこと。</p> <p>環境への放出を避けること。</p>

	<p>(緊急時)対応</p> <p>飲み込んだ場合:気分が悪いときは、医師の診断・手当を受けること。口をすすぐこと。</p> <p>吸入した場合:空気の新鮮な場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。</p> <p>皮膚に付着した場合:大量の水と石鹼で洗うこと。汚染された衣服を脱ぎ、再使用する場合は洗濯すること。</p> <p>目に入った場合:水で数分間注意深く洗うこと。目の刺激が続く場合は、医師の診断・手当を受けること。</p> <p>気分の悪い場合:医師の診断・手当を受けること。</p> <p>漏洩した場合:漏洩物を回収すること。</p> <p>保管:涼しい所・換気のよい場所に保管すること。</p> <p>廃棄:製品の廃棄を外部に委託するときは、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。</p>
国・地域情報	15項を参照の事

### Section3 組成、成分情報

単一製品・混合物の区分	混合物
成分名	ストロンチウム・フェライト 塩素化ポリエチレン ポリ塩化ビニル樹脂混合物
官報公示整理番号 (化審法・安衛法)	混合物で該当しない
CAS No.	混合物で該当しない
その他、企業秘密の為、明記しない。	

### Section4 応急措置

吸入した場合	一般的な使用の元では該当せず。但し、加工により発生するガス・粉塵を吸い、気分が悪くなった場合は新鮮な空気の場所に移し、回復を待つ。状況によっては医師の診断を受ける。
皮膚に付着した場合	一般的な使用の元では該当せず。但し、溶融物の場合、直ちに清浄な水で冷やす等、一般の火傷と同様に処置する。通常の場合は、清浄な水、又は石鹼水で洗浄する。

眼に入った場合	破片・粉塵が眼に入った場合、眼をこすったりせず、直ちに清浄な水で洗眼する。異物感がある場合、異物感がなくなるまで十分に洗眼し、速やかに医師の診察を受ける。
飲み込んだ場合	破片・粉塵などを飲み込んだ場合、水を飲み嘔吐させた後、医師の診察を受ける。

#### Section5 火災時の処置

消火方法	水、粉末消火剤、炭酸ガス、乾燥砂を用いる。
消化剤	水、粉末消火剤、炭酸ガス、乾燥砂
特定の消火方法	危険でなければ火災区域から容器を移動する。
その他	消火作業を行う際は、適切な空気呼吸器を含め、適切な保護衣を着用する。

#### Section6 漏出時の処置

人体に対する注意事項	本製品は磁力線が発生しているため、ペースメーカーを使用している人には近づけないよう特に注意して下さい。
環境に対する注意事項	密閉容器に回収し、産業廃棄物として処理する。 粉末・粉塵等は、後述の廃棄上の注意に従い廃棄する。
除去方法	固体のため特別な措置は不要。こぼれた場合は容器に回収する。ただし、加工等により発生した微粉末は吸入しないよう十分な換気を行い、保護具の着用の上除去して下さい。

#### Section7 取扱い及び保管上の注意

取扱い	成形加工時は、長袖・長ズボン・保護手袋等の保護具を必要に応じて着用すること。成形加工時は発生ガスを吸入しないよう、適切な換気を行うこと。 破袋しないように注意し取り扱うこと。 磁気製品(磁気カードや磁気テープ等)を傍に置かないこと。 火気などの着火源を近づけないこと。
保管	直射日光を避け、高温多湿下での長期保管は避ける。 熱・発火源から離れた場所で保管する。

#### Section8 暴露防止及び保護措置

設備対策	局所換気装置を設置すること。
------	----------------

許容濃度	該当せず。
管理濃度	該当せず。
保護具	長袖・長ズボン・手袋等で、加工時には必要に応じ保護するのが望ましい。
衛生対策	取り扱い後はよく手を洗うこと。

### Section9 物理的及び化学的性質

#### 物理的状态

形状	固形物
臭い	なし
沸点	—
軟化点	80～120℃
引火点	PVCにおいて300℃以上。その他、非該当。
爆発特性	—
可燃性	300℃以上で相当時間空气中に暴露すると、燃焼することがある。その際、塩酸ガス、一酸化炭素、二酸化炭素が発生することがある。 また、着火源があれば、PVC フィルムにおいて可燃性あり。
発火性	400℃以上の温度で発火することがある。
溶解性	水に溶解せず。

### Section10 安定性及び反応性

安定性	通常の手扱いは安定。
反応性	知見なし
避けるべき条件	高温下にすること。
混触危険物質	酸や揮発性の高い溶剤等
危険有害な分解生成物	火災時の燃焼により、塩酸ガス、一酸化炭素、二酸化炭素などの有害ガスが発生する。

### Section11 有害性情報

急性毒性	データなし
皮膚腐食性・刺激性	データなし
眼に対する重篤な損傷・刺激性	データなし
呼吸器感作性又は	呼吸器感作性:データなし

皮膚感作性	皮膚感作性:指などに反復して擦ると油脂分が取られ、赤く切れる場合がある。
生殖細胞変異原性	データなし
発がん性	データなし
生殖毒性	データなし
特定標的臓器・全身毒性－ 単回暴露	データなし
特定標的臓器・全身毒性－ 反復暴露	データなし
吸引性呼吸器有害性	データなし

#### Section12 環境影響情報

水生環境急性有害性	データなし
水生環境慢性有害性	データなし
生体蓄積性	データなし
土壤中の移動性	データなし

#### Section13 廃棄上の注意

法律(廃掃法)に従い、都道府県の許可を受けた産業廃棄物処理業者に委託して処理する。

#### Section14 輸送上の注意

注意事項	運搬に際しては、転倒、落下などのないように積み込み、荷崩れなどでケガなどしないように防止対策を確実に行う。 着磁品を航空輸送する場合は、IATA(国際航空運送協会)危険物規則に従い、取扱い下さい。
国連番号	非該当
国連分類	非該当

#### Section15 適用法令

- (1) 廃棄物の処理及び清掃等に関する法律(廃掃法)
- (2) 化学物質の審査及び製造時の規制に関する法律(化審法)
- (3) 労働安全衛生法(安衛法・通知)
- (4) その他、お使いの地域における地方条例等の法規制等にも注意が必要。

---

Section16 その他の情報

---

引用文献

自社データ

化学物質総合情報提供システム(製品評価技術基盤機構 NITE)

JIS Z7253:2012 GHSに基づく化学品の危険有害性情報の伝達方法-ラベル、

作業場内の表示及び安全データシート(日本規格協会)

GHS 分類ガイダンス(経済産業省)

職場のあんぜんサイト(厚生労働省)

化学品の分類及び表示に関する世界調和システム(GHS)改訂5版(経済産業省)

記載内容の取扱い

- ・ 現時点で入手し得る資料、情報、データに基づいて JIS Z7253:2012 に準拠するように作成したのですが、その内容の厳密性について責任を負うものではありません。
- ・ 記載内容は通常の取り扱いを前提としたもので、特殊な取り扱いの場合には、用法、用途に適した十分な安全・環境対策を講じた上でご使用下さい。
- ・ この情報は、新しい知見及び試験等により改正されることがあります。
- ・ 全ての化学製品には未知の有害性があり得るため、取り扱いには細心の注意が必要です。ご使用者各位の責任において、安全な使用条件を設定下さるようお願い致します。